

令和 4 年度 鳥取市地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について

鳥取市地域内フィーダー系統確保維持計画に基づいて実施された「鳥取市地域内フィーダー系統確保維持事業」について、事業評価を行うものです。

① 地域内フィーダー系統確保維持事業とは

生活交通の確保・維持・改善のため、バス路線を幹線（路線バス等）と支線（乗合タクシー等）に再編するなど、地域の特性・実情に応じた最適な移動手段を提供するための事業です。

この事業により再編された支線部分の系統をフィーダー系統と言い、計画に基づいて運行される公共交通には、運行経費の一部として国から補助金が交付されますので、毎年計画を策定し、国へ申請を行っています。事業実施後の事業評価は、生活交通会議で協議が調っている必要があります。

② 運行路線（2 路線 3 系統）**（1）米里線（予約型） 2 系統**

経 緯：路線バス「米里越路線」が平成 2 1 年 9 月に廃止。

運行事業者：日本交通株式会社

便 数：平日 13 便、土日祝 12 便

（2）雨滝上地線（区域型）

経 緯：路線バス「中河原線」の一部が平成 2 8 年 3 月に廃止。

運行事業者：日ノ丸ハイヤー株式会社

便 数：平日 34 便、土日祝 34 便

※区域型：バス停ではない場所で乗降でき、利用者のニーズに対してある程度柔軟な対応が可能。

③ 目標・効果**（1）目標**

年間利用者数の目標値については、人口減少・高齢化、都市部への人口流出等によるバス利用者の減少を加味し、直近実績の維持を目標として設定しています。

（2）効果

市・運行事業者・地域住民が一体となって目標達成に取り組むことで、地域住民自らの手で交通手段を確保するという機運の醸成、高齢者の外出機会の創出による健康増進、都市部への人口流失抑制による地域の活性化等に効果が期待できます。

④ 評価基準

(1) 事業実施の適切性

生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施されたかを、A,B,C の3段階で評価します。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を明らかにします。

A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された

B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった

C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

(2) 目標・効果達成状況

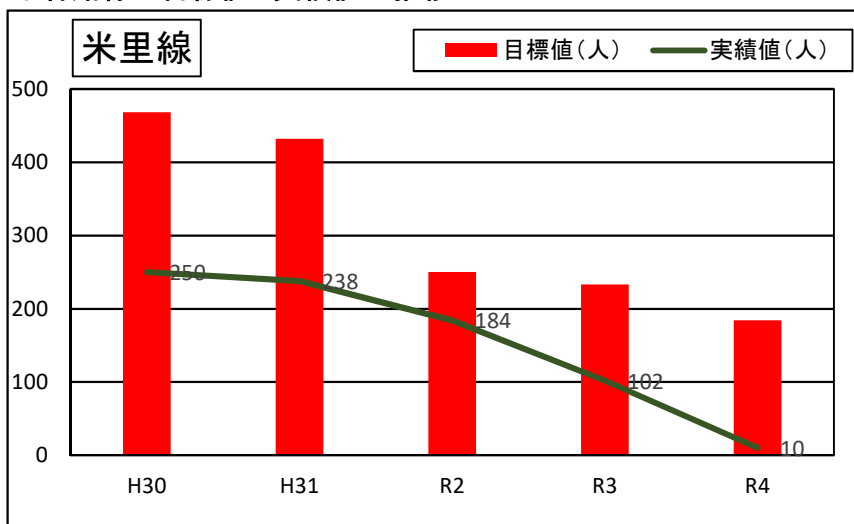
生活交通確保維持改善計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、設定した目標ごとに A,B,C の3段階で評価します。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上明らかにします。

A：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成した

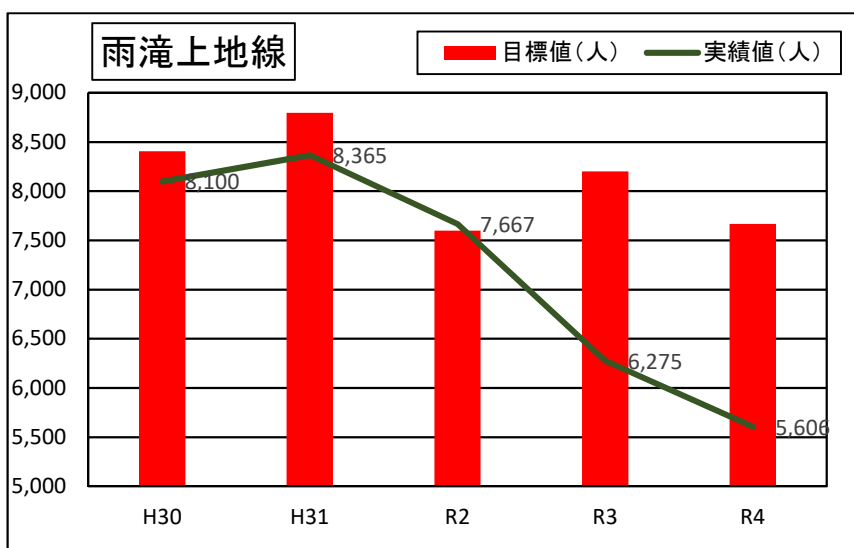
B：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成できていない点があった

C：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成できなかった

○各路線の目標値と実績値の推移



米里線	H30	H31	R2	R3	R4
目標値(人)	468	432	250	233	184
実績値(人)	250	238	184	102	10



雨滝上地線	H30	H31	R2	R3	R4
目標値(人)	8,404	8,796	7,598	8,198	7,667
実績値(人)	8,100	8,365	7,667	6,275	5,606

米里線の状況について

1. 経過

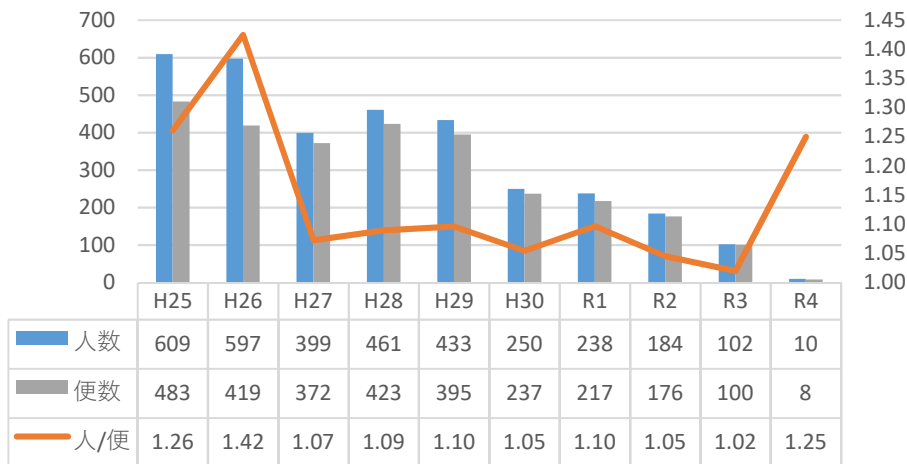
平成21年9月末をもって路線バス『米里越路線』が廃止されたことに伴い、その後も地域住民の生活交通を確保するため乗合タクシーを運行しています。

しかし、地元とともに利用促進に努めてきましたが年々利用者が減少しているのが現状です。

2. 利用実績

年間利用者 600 名を超える年もありましたが、年々利用者は減少し近年は特に大幅に減少しています。従来から少数の高齢者が高頻度で利用される場合が多かったですが、利用になる方が減るにつれ利用実績も減少しました。

米里線利用実績



3. 課題と今後の取組み

一部の高齢者だけでなく、地域全体で利用されるため抜本的に見直す必要があります。市、地元、事業者と検討を進め、買い物や地域の内科、中学生の通学にも対応できるように来年度にはルートと時刻表を大幅に見直すこととしています。

地域公共交通確保維持事業・事業評価(生活交通確保維持計画に基づく事業)

令和5年1月 日

協議会名: 鳥取市生活交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日本交通(株)	①米里線(越路～市立病院) ②米里線(越路～桜谷口)	(R3二次評価結果) ・生活交通として、地域に適した交通モード検討し関係者と連携し利用促進に努めていることは評価できるが、目標は未達成となった。目標の見直し含めコロナの影響以外の要因などの分析も行っていただきたい。 ・利便性効率性を高められるかを関係者と連携して議論していただきたい。住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるよう期待する。	A 計画通り事業は適切に実施された。	(目標) 目標184人に対し実績10人であり、目標を下回った。 B (効果) 市立病院への通院やスーパーへの買い物など、地域住民の広域移動を可能とする交通手段となっている。	引続き地元と利用促進に努めたが、利用者数が大きく減少した。 現在、ルート及び時刻について抜本的に見直すため地元と事業者と協議を重ねている。
日ノ丸ハイヤー(株)	雨滝・上地線	(反映状況) 利用状況を共有し、利用促進に努めるため地域と意見交換会を重ねた。		(目標) 目標7,667人に対し実績は5,606人であり、目標を下回った。 B (効果) 区域運行を行うフィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、通学を中心とした地域住民の交通手段となっている。	利用者数は前年度に続き減少したが、通学を中心に地域住民の交通手段として確立されている。 今後も引続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。

運行系統図 別紙

系統名 米里線
運行形態 4条路線、路線不定期運行(予約型)
運行日 1月1日・2日以外
便数 市立病院便 平日11便、土日祝日10便
桜谷口便 平日2便、土日祝日2便
運賃 上限200円

米里線



運行系統図 別紙

系統名 雨滝・上地線
運行形態 4条路線、区域運行(予約型)
運行日・便数 毎日運行、34便
運賃 上限200円

